



くさばな しんぶん

2020年3月号

2020(令和2)年

3月4日発行

通算第289号

【コロナ】

そのニュースは2月27日(木)の夕方、突然飛び込んできました。来週から全国の小中高と特別支援学校を休校にするという首相の「要請」です。居合わせた職員ととも「エーッ!？」でした。とっさに、幼稚園や保育園は?と疑問が湧きました。後追いニュースで、幼稚園も保育園も対象外と聞き、また「エーッ!？」でした。休校要請の目的は「何よりも子どもたちの健康を守るため」とされていたからです。乳幼児は「子どもたち」ではないのか?

しかし、文科省と厚労省は基本的に開園を求めています。もちろん、感染者が近隣に出た場合は別です。27日以来、市を通じて行政からの通知が次々とメールで飛び込んできています。文科省も厚労省も対応に追われているようです。

さあ、当園はどうすべきか。さまざまなことを考えましたが、結論としては、通常どおりとすることにしました。たとえば1号児を休園としても、2号児は保育をしなければなりません。繰り返しますが保育園や認定こども園も休園が要請されていませんし、1号児についても休むことが要請されていません。1・2号の別は行政上の分け方です。幼稚園にいる限り同じ幼児であることに変わりはありません。分けることは行政上の理由によるだけのことです。1号児を自主登園とすることも考えなかったわけではありませんが、文科省からは感染が心配で欠席する場合であっても、欠席の取り扱いについては「欠席」とするようにと通知がありました。「出席」扱いとする方針は示されませんでした。そんなことなどを考え、結論として通常どおりとすることにしました。

一昨日の一斉メールと昨日の手紙でもお知らせしましたが、各ご家庭の判断で、世の中の情勢を考えた上で幼稚園への登園を控えることは構いません。そのような場合は、「感染が心配だから」と園にお伝えください。幼稚園に残す記録としては、通常の自己都合による欠席ではなく、今般の感染症の恐れが世の中に広がっている事情を考慮しての欠席として残すことになります。そうした扱いとするようにと、2月28日付の文科省の通知で指示がありました。

ただし、行事の開催の方法・形態は再検討せざるをえませんでした。子ども会も大幅に変えました。子ども会については、急な変更にもかかわらず、ご理解をいただいたことに深く感謝申し上げます。3月はそのほかにも大切な行事が並んでいます。これらについても、すでにお知らせしたとおり変更しました。やま組最後のお別れ遠足も、また、毎朝の検温などの健康チェックもお願いすることとしました。

今回の「要請」が各行政の分野を担当する部署には相談することなく行われたことが、明らかになってきています。しかし、政治的決断は、それが合理的な目的と理由によるものであるのならば、フライング気味であっても迅速におこなわれなければならない場合もあると思います。何はともあれ、この得体の知らないウイルス感染症の伝染が早く終熄してくれることを祈るばかりです。

理事長 山城 清邦



「子ども会が無事に終わりました」

29日の子ども会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、急遽のプログラム変更にもかかわらず、たくさんのご家族の皆様に来ていただきました。正直、開催自体も直前まで悩みましたが、お子さまたちのこれまでの練習の成果と、1年の成長を見ていただきたいという思いで決行することにしました。そのため、感染予防対策をするべく、全学年の入れ替え制という形を取りました。保護者の皆さまの中には、ゆったり見ることができて良かったと思われた方、他の学年の出し物も見ただかっ

たと思われる方と、賛否あると思います。本来のくさは幼稚園の子ども会は、お子さまたちもお客様となり、目の前で頑張る友達姿を見るところで、これは、私がこの幼稚園で働く前からずっと続いています(一時期だけ、そうでなかったこともあったのですが・・・)。自分たちが前に出て演技するだけでなく、友だちの姿を見ることは、私たち大人が教えるよりも自分の目で覚えることの多いお子さまたちにとって、大きな意味があるという考え方の下、そのようにしてきました。今年は、そのような形でできずとも残念でしたが、この状況下で少なくとも、保護者の皆さまには、クラスの演目はご覧いただけたのでよかったですとっております。今回の開催につきまして、保護者の皆さまのご理解とご協力で職員一同感謝いたします。

さて、今年度も残すところ約2週間となりました。コロナウイルスの拡大が心配ではありますが、園では、これまで以上に予防に努め、お子さまたちが安全に楽しく最後の月を過ごせるようにしていきたいと思っております。ご家庭におきましても、お子さまの体調の変化等にご注意いただき、予防に努めていただけるよう、ご協力をお願いいたします。

園長 影山 幸江

私のおすすめの絵本

(この欄は教職員が交代で担当します)

私のおすすめの絵本

「ちょっとだけ」 福音館書店

瀧村有子・鈴木永子



なっちゃんという女の子に、弟が生まれ、なっちゃんはお姉ちゃんになりました。ママは赤ちゃんのお世話でいつも忙しそう…。そんなママの姿を見て、いつもママがやってくれていたことを自分でやってみようと思います。くして髪をとかして結ぶこと、パジャマのボタンを掛けること…“ちょっとだけ”成功しました。

公園でなかよしのお友達とママに会い、『お姉ちゃんになったんだ。あかちゃんかわいいでしょう?』と聞かれ、なっちゃんは“ちょっとだけ”顔みます。自分の思いとの葛藤の中から出る言葉と、ママの優しい言葉とは…

弟が生まれて嬉しい気持ちと、ママに甘えたいけれど、わがままは言えないという思いからこぼれたなっちゃんの一言に、胸がキューッと締め付けられ、泣きながら読みました。

まだ娘が3歳のころ、字を読むのもままならないにもかかわらず、ストーリーをすべて覚え、私に読み聞かせをしてくれた、娘との大切な思い出の1冊です。

石井 香央里

保護者会だより

今月は影山園長へのインタビューと保護者会からのひとことです。

担当：やま組 河野 土井垣 加茂前

Q. リフレッシュに何をされていますか?

A. 公園や海に行ってランチをしたり、友達とお茶を飲みながらおしゃべりしています。

Q. 子供とのオススメの遊びはありますか?

A. もう大きいので遊ぶというよりは、季節によって山登りやハイキング、海遊び、スキーなどを楽しんでいます。

Q. 100万円あったら何に使いますか?

A. 自分磨き…と言いたいところですが、現実には子供の教育資金でしょうか…。

保護者会役員より

役員をやってみると、分からないことが多く大変なこともありましたが、10人で助け合い、楽しく活動することができました。園長先生はお忙しい中にもいつも優しくフォローしてくださいました。大変感謝しております。役員として行事に携わる中で、先生方が遅くまで一生懸命準備されているのを間近で拝見し、楽しい行事の裏では先生方や今までの役員さん方が大変努力されていたのだと実感することができました。先生方、保護者の皆様、一年間ご協力頂きまして本当にありがとうございました。

保護者会役員一同